

第2回教育委員会会議

令和8年2月10日
午後3時00分
本庁舎屋上会議室

案 件

報告第5号

令和7年度大阪市英語力調査について

令和7年度 大阪市英語力調査について

大阪市英語力調査とは

(1) 目的 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

(2) 実施テスト GTEC Core（英語4技能型テスト）

(3) 調査対象 大阪市立中学校第3学年全生徒

(4) 測定方法

技能	スコア	回答方法
聞くこと	210	マークシートによる選択式
読むこと	210	
話すこと (やり取り・発表)	210	オフラインで、専用タブレットによる音声録音方式
書くこと	210	記述式
計	840	

大阪市英語力調査結果

		GTEC 平均スコア					トータル	*1 CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合
		リスニング (聞くこと)	リーディング (読むこと)	スピーキング (話すこと)	ライティング (書くこと)			
R7 (2025)	大阪市平均	110.2	117.4	98.4	146.4	475.2	60.3%	
	*2全国平均	105.0	101.0	104.0	152.0	462.0	—	
	対全国比	1.05	1.16	0.95	0.96	1.03	—	

*1 CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment): 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1は英検に換算すると3級程度。

*2 全国平均とは、過去3年間に全国でGTECを実施した学校(中3)の平均値

〈参考〉

		GTEC 平均スコア					トータル	*1 CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合
		リスニング (聞くこと)	リーディング (読むこと)	スピーキング (話すこと)	ライティング (書くこと)			
R6 (2024)	大阪市平均	104.6	105.7	102.1	149.6	464.8	57.5%	
	*2全国平均	105.0	100.0	99.0	151.0	457.0	—	
	対全国比	0.996	1.06	1.03	0.99	1.02	—	

- CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合は、前年度から2.8ポイント上昇して60.3%となり、計画期間を令和9年度までとする国の第4期教育振興基本計画の目標値である60%を上回った。
- 技能別では、「読むこと」に強みがみられるものの、「話すこと」、「書くこと」の発信技能には課題がみられる。

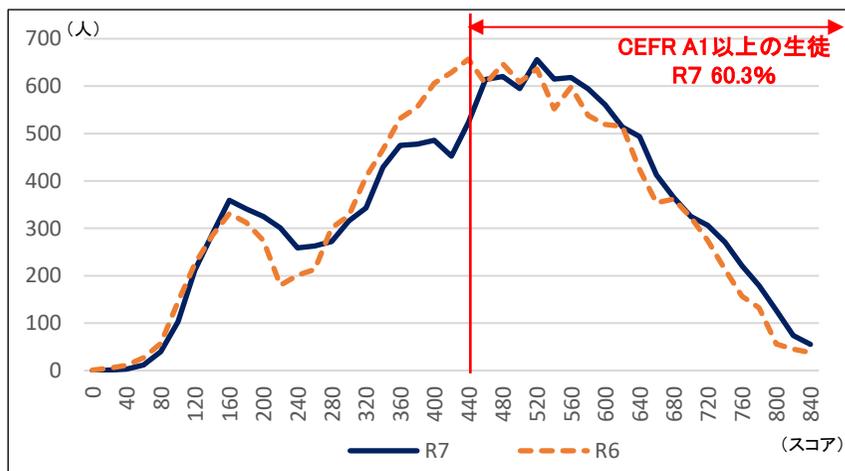
分析・検証

(R8.1.30 英語教育推進ワーキング会議)

- 「語彙や文法を覚えること」から、「何ができるようになるか」へのシフトが必要
- 小中の学びの接続
- AI等デジタルツールの活用

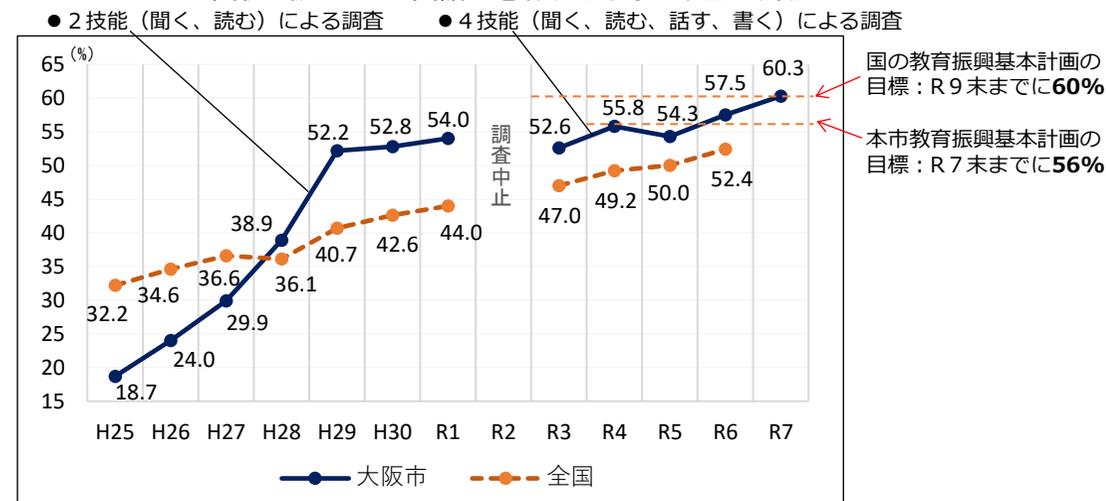
- 発信技能において、全国平均以上を実現
- CEFR A1レベル以上の生徒割合：令和11年度末までに62%以上

令和7年度GTECにおける4技能トータルスコアの度数分布



- スコア別の度数分布によると、昨年度と比べ、中上位層のスコアが全体的に向上している。
- 下位層の生徒数が一定数あり、学力の二極化傾向がみられる。

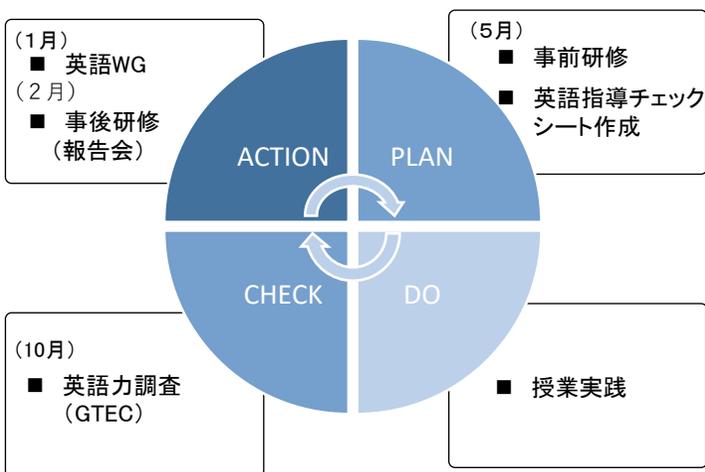
CEFR A1レベル(英検3級)以上の英語力を有する中学3年生の割合



- CEFR A1レベル以上の生徒割合は、着実に上昇している。

〈参考〉

指導のPDCAサイクル



GTEC 2年生実施モデル校(13校)の結果

		GTEC 平均スコア				トータル	*1 CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学2年生の割合
		リスニング(聞くこと)	リーディング(読むこと)	スピーキング(話すこと)	ライティング(書くこと)		
R7 (2025)	大阪市平均	92.9	94.4	82.0	115.7	388.2	36.9%
	*3 全国平均	98.0	87.0	98.0	140.0	423.0	—
	対全国比	0.95	1.09	0.84	0.83	0.92	—

*3 全国平均とは、過去3年間に全国でGTECを実施した学校(中2)の平均値

- ✓ GTECを中2で実施することで、生徒の学習改善を図る
- ✓ 同一生徒の経年比較データを活用することで、教員のさらなる授業改善を図る